

東北学院大学の改革に関する意見箱 回答

No.	2024-030
投書日	2024/10/25
タイトル	五橋キャンパスのシンボルツリー「モミ」について
投書内容	<p>ジロモミは当地に自生するモミに比べて、より冷涼な山岳気候下に生育する樹種です。コンクリートに囲まれた五橋キャンパスのような立地では、ヒートアイランド現象が生じやすいことからなおのこと、植樹対象として適切とは言えないと考えます。</p> <p>本学の土樋キャンパス・ラーハウザー記念礼拝堂の前には見事なモミの大木があり、時代を超えて本学を見守ってきたと拝察します。上述のように、モミは仙台・宮城を代表する長寿の常緑針葉樹で、丘陵域で気候的極相林を構成するほか、少なくとも藩政時代以降、由緒ある史跡や公園、お屋敷、墓所などに植栽されてきました。本学・地域の風土・歴史・文化に連なるモミこそ、植栽されるべき樹種であると確信します。</p> <p>なお、モミは実生・幼樹段階では鉾質土壌の、木漏れ日が明るく差し込むような場所に根づいてゆっくりと成長しますが、樹高が1m程に達した後、ぐいぐいと樹高が伸びだします。したがって、枯死リスクの高い大きめの個体を移植しなくても、樹高1m以下の個体を植樹し、その適性を尊重しながら「みんなで見守る、大切に育てる」という方策を採用する方が、教育の府たる本学において、真の意味でのシンボルツリーとなりえるのではないかと考えます。</p>
回答日	2024/11/14
回答	<p>この度は、五橋キャンパスのシンボルツリーに関わるウラジロモミとモミについて、貴重なご意見をいただき御礼申し上げます。</p> <p>ご指摘の通り、シンボルツリーのウラジロモミは、残念ながら枯損してしまいました。</p> <p>原因については、樹木医より2023年夏季の猛暑（高温）と少雨による乾燥、さらに日照時間も多く、樹木にとっては過酷な環境になっていたことと、このような生育条件下では、大径の常緑針葉樹の灌水管理が非常に難しくなり、植付け後初めての発芽期（2023年春）に伸びた枝葉や根が衰退し、衰弱化が進んだことがあげられています。また、植樹の時期が建物建設工事の工程上、竣工間際の2022年9月と秋季になったことから、植物の活動が低下する時期と重なったため、春先の植樹に比べるとやや管理が難しかったこともあわせて報告されています。</p> <p>今後、後継樹や植樹時期、育樹計画については、上記の樹木医報告を考慮し、植替えの候補木をウラジロモミ（生育地：福島県矢吹町、高さ：約7m）、植樹時期を2025年3月に予定しております。</p> <p>なお、候補木のウラジロモミ（国内に自生している国内外来種であり日本の特産種）については、樹木医と造園業者の意見から、モミに比べ耐寒性があることや、都市型の環境に適応しやすいこと、さらに根が纏まりやすく移植しやすいことなどがあげられています。</p> <p>ご提案いただきました、景観生態学・植生学の視点からのご意見は、今後のキャンパス植栽計画策定にあたり、大変貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>